

大学評価・IR担当者集会2022

## 評価初心者セッション 講義編

### ー初めて評価を担当される方へー

令和4年9月2日（於：九州大学伊都キャンパス）  
大学評価コンソーシアム

## 評価初心者セッションのねらい

- 大学の評価に関する基本的な考え方，発想法を体感する。
- 大学の評価におけるスキルは種々あるが，最も重要なのは基本的な考え方，発想をしっかりと持つことである。
- それがないと，スキルを使いこなせないばかりか，評価作業が場当たりのになる（評価自体が目的化し，評価疲れを招くことになる）。

# 1. 大学評価担当者の基礎知識と心得 本章の概要

■ 本章では、大学評価担当者が知っておくべき以下の事項に関する最低限の知識について説明します。

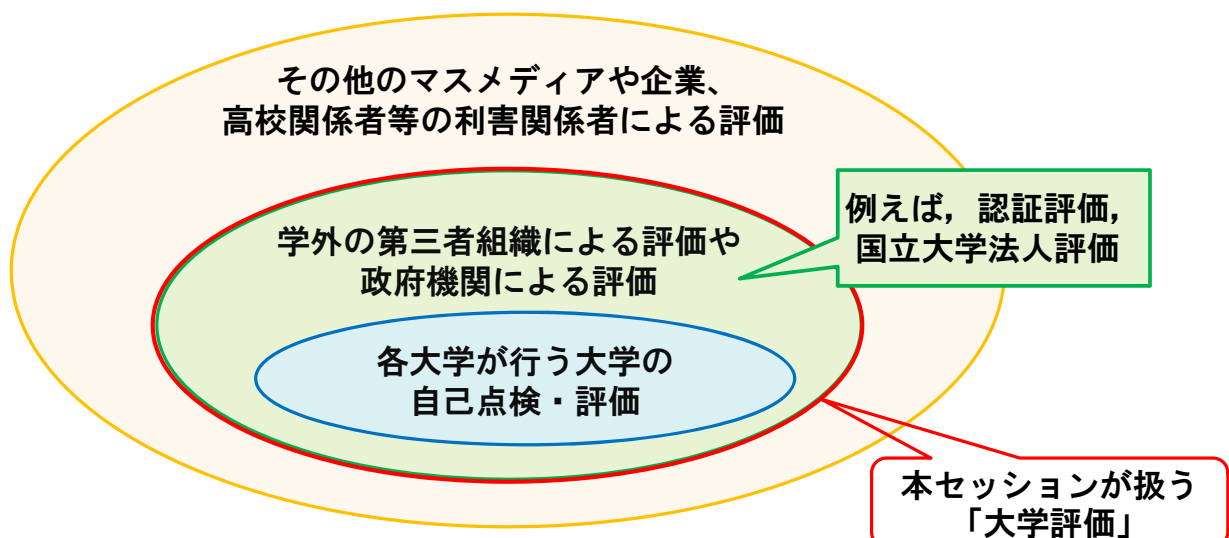
- (1) 「大学評価」とは何か [スライド4～6]
- (2) 大学評価制度の導入経緯と現状 [スライド7～9]
- (3) 評価業務にあたって意識しておくべき心得 [スライド10]

■ 以下を達成目標とします。

- (a) (1)～(3)について、要点を説明できる。
- (b) (3)の知識を、実際の評価業務の現場で活用できる。

3

# 1. 大学評価担当者の基礎知識と心得 大学評価の基本的な構造



出典：新野 豊，藤原将人（2010）「評価者研修について—日本の大学評価における評価者育成の動向と課題—」，『大学評価研究』第9号，92ページ 図1．

4

# 1. 大学評価担当者の基礎知識と心得 大学評価の目的

## ① 説明責任 (accountability)

- 大学の教育研究活動等の目的や特徴，成果を示し，社会的説明責任を果たすこと。

## ② 改善 (improvement)

- 大学における諸活動の現状理解を通じて，問題点や課題を改善し，大学の質の保証ならびにその維持・向上を図ること。

5

# 1. 大学評価担当者の基礎知識と心得 機関別認証評価と国立大学法人評価の概要

評価制度	機関別認証評価	国立大学法人評価
基礎となる法律	学校教育法	国立大学法人法
評価の対象	全ての大学，短期大学，高等専門学校	国立大学法人，大学共同利用機関法人
評価の目的	教育研究活動などの ①質の保証 ②質の改善・向上 ③社会的説明責任	①中期目標期間における諸活動の質の向上 ②次期中期目標・中期計画への反映 ③国費の投入に対する説明責任
評価の内容	認証評価機関が定める評価基準に基づき，教育研究，組織運営及び施設設備の総合的な状況	中期目標・中期計画に対する教育研究活動や経営面などを含めた総合的な達成状況
実施時期	7年以内ごと	各年度終了時， 4年目終了時及び中期目標期間終了時

(注) 国立大学法人評価に関連して，本稿作成時点で第4期各年度終了時の評価の詳細については未定となっている。

6

## 1. 大学評価担当者の基礎知識と心得 大学評価導入の経緯

1. 大学設置基準の大綱化（1991年）
  - 事前規制方式を緩和する代わりに、自己点検・評価の努力義務化
2. 大学設置基準の改正（1999年）
  - 自己点検・評価の実施と公表の義務化
  - 自己点検・評価の外部者による検証の努力義務化
3. 認証評価制度，国立大学法人評価制度の開始（2004年）
  - 大学の自己点検・評価に基づく第三者による評価の義務化

## 1. 大学評価担当者の基礎知識と心得 大学評価の現状と課題

- 認証評価制度，国立大学法人評価制度の開始（2004年）に伴い，各大学ではそれぞれの大学の文化・特性に沿う形で評価活動を展開
- 「エビデンス（根拠）に基づく評価」の徹底
- 一方，現場レベルでは「評価疲れ」も。
  - ◆ 評価作業に係る負担の大きさなどの問題，評価自体が目的化しているという課題
  - ◆ 大学評価に関わる者は，これらの課題の改善について考えることも大切

## 1. 大学評価担当者の基礎知識と心得 評価担当者に求められるスキルの変化

- (大学によって状況は異なるが) 従来, 評価担当者は自己評価書のとりまとめ・作成ができれば職務を十分遂行していた。
- 最近では, 評価担当者に, 自己評価書作成以外の業務が課せられるようになってきている。
- 例えば, 内部質保証への対応, 改善計画や中期目標・中期計画・年度計画の策定, 指標策定, IRなど, 専門性/高度なスキルを要する業務
- 自己評価書に求められる内容についても高度化しており, これに対応できるだけの幅広い知識・能力が要求されている。
- 文章でごまかすことは通用しない, 客観的成果の分析・提示方法に工夫が必要, 詳細な(専門的な)エビデンスを理解しないといけない など

9

## 1. 大学評価担当者の基礎知識と心得 評価業務に当たって意識すべき事項

- (1) 支援的であること：質の維持・向上のための手がかりを提供＝改善志向
  - 評価には説明責任と改善の2つの目的がある。
- (2) 双方向的であること：関係部局の教職員等との密な対話と信頼構築
  - 評価の目的を共有する。
  - 教職員とのコミュニケーションにおいて, 教育研究等の状況を把握し信頼関係を構築する。
- (3) 明示的であること：作文ではなく, 根拠に基づいた評価とプロセスの透明化
  - 改善を志向するためには, 誠実な自己点検・評価が必要。
  - 現状を把握し共有するために, 多様なデータに基づいた活動の根拠を示す。
  - 自己点検・評価のプロセスを明文化する。

参考文献：未来工学研究所（2018）「研究開発評価研修プログラム」テキスト，43～48ページ  
（「文部科学省の「研究開発評価研修プログラム教材」の改定に係る調査・分析」報告書，平成29年度文部科学省研究開発評価推進調査委託事業）。

10

## 2. 目標・計画に基づく評価の概要

### 本章の概要

- 本章では、中期目標・中期計画に代表される目標・計画に基づく評価の概要について説明します。

- (1) 目標・計画に基づく評価とは何か [スライド12～15]
- (2) 目標・計画に基づく評価における留意点 [スライド16～19]
- (3) 点検・評価する際の基本的な考え方 [スライド20～23]

- 以下を達成目標とします。

- (a) 各自の大学の状況に応じて(1)の概要を説明できる。
- (b) (2)と(3)について、要点を説明できる。
- (c) (2)と(3)の知識を、実際の評価業務の現場で活用できる。



## 2. 目標・計画に基づく評価の概要

### 目標・計画に基づく評価とは

- ほぼすべての大学において、大学の理念や目的を達成するために、期間の設定された中期的な目標・計画を自ら定めている。

- この目標・計画が確実に達成できるよう、一般に次が行われる。

- 1) 進捗管理を兼ねた定期的な自己点検・評価
- 2) 設定期間終了後に、目標・計画の達成状況や目標達成に向けた手段の改善の状況について自己点検・評価

- ◆ これらの自己点検・評価の結果について、外部評価や第三者評価を受けることが望まれる。

- 内部質保証の観点から、現状を踏まえて改善に向けた活動の計画、その活動の実行、活動結果（活動の実施状況及び成果・効果）の把握・評価、さらなる改善のPDCAサイクルを継続的に実践することが求められている。

## 2. 目標・計画に基づく評価の概要

### 目標・計画に基づく評価の例（国立大学）

- 国立大学法人法で、中期目標、中期計画に関する実績について、国立大学法人評価が義務づけられている。
  - ① 中期目標：教育研究の基本理念やこれを実現するための6年間の目標を明示したもの。第四期中期目標期間は令和4～9年度。
  - ② 中期計画：中期目標を実現するための具体的な計画
    - 第三期中期目標期間までは、各大学は年度計画を毎年度作成し、その実績について国立大学法人評価委員会による年度評価が行われていた。
    - 国立大学法人評価委員会は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に認証評価の結果を踏まえて国立大学法人評価を行うよう要請（令和2年4月施行）
    - 中期目標の原案、中期計画は各法人が作成する（中期目標は文部科学大臣が定める）。
    - 第四期中期目標期間の国立大学法人評価の具体的内容・方法は明らかにされていない。
- 第四期中期目標・中期計画では、計画ごとに「検証可能な評価指標」を明記することになり、その素案を文部科学省に提出する際に、評価指標の設定理由を記載した調書の提出も求められた。さらに、第四期中期目標期間が始まってから、「意欲的な評価指標」を文部科学省に提出するよう求められた。

13

## 2. 目標・計画に基づく評価の概要

### 目標・計画に基づく評価の例（公立大学）

- 地方独立行政法人法に規定される中期目標、中期計画、年度計画に関する実績について、地方独立行政法人評価委員会が評価する。
- 評価時期、評価内容、評価方法などは各評価委員会の判断に委ねられている。
- 中期目標期間における業務実績の評価に当たって、認証評価機関の教育及び研究の状況についての評価を踏まえることとされている。

14

## 2. 目標・計画に基づく評価の概要

### 目標・計画に基づく評価の例（私立大学）

- 私立学校法で、理事長から評議員会へ事業計画を諮問するとともに、年度ごとに事業の実績について報告することや、事業報告書を作成し、閲覧に供することを義務づけられている。
- 私立学校法で、事業に関する中期的な計画等の作成が義務づけられている（令和2年度施行）。  
内容等の設定は各学校法人に委ねられるが、認証評価の結果を踏まえて、原則として5年以上の期間で、教学、人事、施設、財務等の事項を盛り込んで作成する。

15

## 2. 目標・計画に基づく評価の概要

### 目標・計画に基づく評価における留意点

- 目標・計画の内容が抽象的であれば、点検・評価を行いやすくするため、具体的な内容にブレイクダウンする必要がある。
- 目標・計画の達成度や成果の記述にあたって、
  - ① 何を実施したか【実施状況】
  - ② 実施した結果、何がどのくらい改善・向上したか【成果・効果】について示す必要がある。
  - 達成度を測定するための「指標」を設定することが望まれる。  
指標の設定にあたって、目標時点や目標値を定めることが必要。
- 達成状況が芳しくない場合、自己評価書にその事実だけを記載するのではなく、部分的にポジティブな要素があればそれを交えたり、計画通りに進まなかった原因を踏まえて改善の方向を示したりする。

16



## 2. 目標・計画に基づく評価の概要

### 中期目標・中期計画，改善計画等の策定と評価

- 中期目標・中期計画，改善計画等の策定にあたっての注意点  
～これらの検討が不十分だと評価の際に苦勞する
  - ◆（経験や勘ではなく）データに基づく現状理解
  - ◆ 評価可能性を意識した目標・計画の文言作成
  - ◆ 達成状況や達成度の明確化と，遂行状況を定期的に検証するための指標設定
- これらは大学評価やIRの業務に重なる部分もある
  - 執行部・企画担当と評価担当，IR担当の連携・協力が重要

17

## 2. 目標・計画に基づく評価の概要

### 目標・計画に基づく自己点検・評価の実際

- 中期的な目標・計画の進捗管理を兼ねた定期的な自己点検・評価として，次のようなものを（単独あるいは複数組み合わせ）行う。
  - ① 中期計画の進捗状況を定期的に（例えば年1回）自己点検・評価する。
  - ② 中期計画の達成に向けた年度計画を毎年度策定し，年度終了後（および年度中間）にその実施状況を自己点検・評価する。
  - ③ 中期計画の達成度を把握するために，評価指標（KPI：Key Performance Indicator）を設定し，その状況を定期的に把握する。
- これらの結果は公表することが望まれる。

18

## 2. 目標・計画に基づく評価の概要 評価指標策定にあたっての留意点

- ① 事後の客観的な検証が可能な「基準時点」及び「基準値等」が明確に示されているか。
- ② 事後の客観的な検証が可能な「目標時点」及び「目標値等」が明確に示されているか。
- ③ 目標・計画の達成状況を測る評価指標として適切であるか。
- ④ 目標時点や目標値等で示されている，目標・計画の推進によって目指す成果等の水準について，これまでの実績や実現可能性も踏まえて「水準が妥当であるか」。

(注) 第3期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の重点支援「評価指標(KPI)の実質化」に係る評価項目を参考に作成

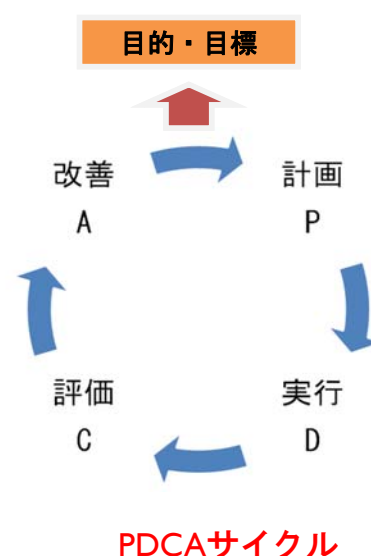
19

## 2. 目標・計画に基づく評価の概要 実際の取組を点検・評価するための考え方 (1/4)

○「目的・目標－計画－実行－評価－改善」という一連の流れを踏まえ，点検・評価項目を明確にする。

■ 計画や教育プログラムなどの実施状況や成果を確認できる点検・評価項目を明確にする。  
「計画に記載した内容を実施したか」，  
「目標の達成にどれだけ近づいたか」，  
「ポリシーの内容が適切に実施されているか」  
など

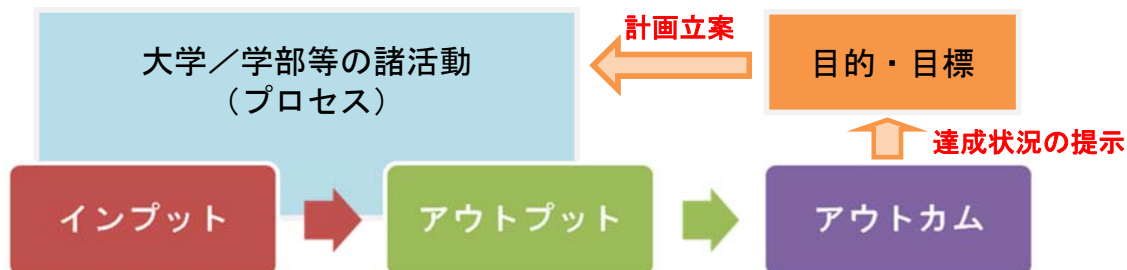
■ 指標（評価指標）の設定なども有効  
評価担当者の立場で点検・評価項目を見る際に，収集すべき根拠資料・データについて考慮することも大切



20

## 2. 目標・計画に基づく評価の概要 実際の取組を点検・評価するための考え方 (2/4)

- 目的や目標に対し、取組の現状を多面的に把握し点検・評価する。
- 「インプット」、「プロセス」、「アウトプット」、「アウトカム」の観点から取組の現状を把握し点検する。



- 「アウトプット」はインプットやプロセスによって直接もたらされる結果、「アウトカム」は活動の結果として起こる変化や影響、相違という違いがあることに注意。

21

## 2. 目標・計画に基づく評価の概要 実際の取組を点検・評価するための考え方 (3/4)

（例題）次の計画の点検・評価項目を考えてみよう。

目 標	対外的に評価される研究を行う。
計 画	論文投稿支援制度を創設する。

（解答例）

- ① 論文投稿支援制度を創設したか？ プロセス
- ② 論文投稿支援制度の実施状況はどうだったか？
  - (a) どれだけの資源を投入したか？ インプット
  - (b) 何人が利用したか？／何件利用されたか？ アウトプット
- ③ 論文投稿支援制度が対外的に評価される研究につながったか？ アウトカム

22

## 2. 目標・計画に基づく評価の概要 実際の取組を点検・評価するための考え方 (4/4)

(演習) 次の計画の点検・評価項目を考えてみよう。

目 標	国際社会で必要とされるスキルを身につけさせる。
計 画	TOEIC600点以上の学生を3割以上にする。

23

## 3. 認証評価の概要 本章の概要

- 本章では、認証評価の概要について、機関別認証評価を中心に説明します。
  - (1) 認証評価とは何か [スライド25～27]
  - (2) 認証評価の評価項目と重視される点 [スライド28～31]
  - (3) 認証評価のスケジュールや自己評価書 [スライド32～38]
  - (4) 認証評価における留意点 [スライド39～41]
- 以下を達成目標とします。
  - (a) (1)～(4)について、要点を説明できる。
  - (b) 各自の大学が受審する認証評価機関に対応して、(2)～(4)の知識を、各自の大学の状況に即した形で実際の評価業務の現場で活用できる。

24

### 3. 認証評価の概要

## 認証評価とは

- 国公立の全ての大学，短期大学，高等専門学校（以下「大学等」）が，定期的に，文部科学大臣の認証を受けた評価機関（認証評価機関）による評価を受ける制度

➤ 令和2年度より大学評価基準に適合しているか否かの認定を義務付け。

#### ■ 認証評価の目的

各大学等における教育研究活動等の質を保証し，質の改善・向上に資するために，認証評価機関が定める大学評価基準に基づく定期的な評価を受け，その結果を社会に向けて明らかにする。

#### ■ 認証評価の種類

- ① 機関別認証評価（7年以内ごと）
- ② 専門分野別認証評価（5年以内ごと）

25

### 3. 認証評価の概要

## 認証評価と目標・計画に基づく評価の違い

	認証評価	目標・計画に基づく評価
評価の観点や自己評価書に記載すべき事項・根拠資料	あらかじめ決まっている（「自己評価書作成要領」等に記されている）。	大学自らが決めなくてはならない。 目標・計画の内容に則したものでなければならない。
自己評価書の記述	一般に大学として求められる必要最低限の水準をクリアしていることが分かる記述。 大学が特色を出すための努力や工夫を積極的にアピールする記述。	公費や授業料等の投入に対する社会的説明責任を果たす観点や，更なる改善が必要か検討する観点から，目標・計画の達成度や成果の記述。

26

### 3. 認証評価の概要 認証評価の特徴

- ① 教育評価が中心
  - 大学における教育活動の重要性を鑑みる
- ② 各大学の目的や目標を踏まえた評価
  - 各大学の個性を伸ばす
- ③ 自己点検・評価に基づく評価
  - 各大学の教育研究活動等の個性化や質的充実に向けた大学の主体的取組を支援・促進
- ④ 大学の教職員等の有識者によるピア・レビューを中心とした評価
  - 大学の状況を適切に評価

27

### 3. 認証評価の概要 大学機関別認証評価を行う認証評価機関及び評価基準 (1/2)

大学改革支援・学位授与機構		大学基準協会		日本高等教育評価機構	
領域 1	教育研究上の基本組織に関する基準	基準 1	理念・目的	基準 1	使命・目的等
領域 2	内部質保証に関する基準	基準 2	内部質保証	基準 2	学生
領域 3	財務運営、管理運営及び情報の公表に関する基準	基準 3	教育研究組織	基準 3	教育課程
領域 4	施設及び設備並びに学生支援に関する基準	基準 4	教育課程・学習成果	基準 4	教員・職員
領域 5	学生の受入に関する基準	基準 5	学生の受け入れ	基準 5	経営・管理と財務
領域 6	教育課程と学習成果に関する基準	基準 6	教員・教員組織	基準 6	内部質保証
		基準 7	学生支援	(注) 上記以外に、大学が個性・特色としている領域に関して独自基準を設定することができる。	
		基準 8	教育研究等環境		
		基準 9	社会連携・社会貢献		
		基準 10	大学運営・財務		

※ 2022年受審用。大学基準協会と日本高等教育評価機構は2018年度より、大学改革支援・学位授与機構は2019年度より、この評価基準に変更。

28

### 3. 認証評価の概要

#### 大学機関別認証評価を行う認証評価機関及び評価基準 (2/2)

大学・短期大学基準協会	大学教育質保証・評価センター
<b>基準Ⅰ ミッションと教育の効果</b> A ミッション B 教育の効果 C 内部質保証 <b>基準Ⅱ 教育課程と学生支援</b> A 教育課程 B 学生支援 <b>基準Ⅲ 教育資源と財的資源</b> A 人的資源 B 物的資源 C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源 D 財的資源 <b>基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス</b> A 大学設置法人の長のリーダーシップ B 学長のリーダーシップ C ガバナンス	<b>基準1 基盤評価：法令適合性の保証</b> イ 教育研究上の基本となる組織 ロ 教員組織 ハ 教育課程 ニ 施設及び設備 ホ 事務組織 ヘ DP, CP, AP ト 教育研究活動等の状況に係る情報の公表 チ 教育研究活動等の改善を継続的に行う仕組み リ 財務 ス その他、教育研究活動等 <b>基準2 水準評価：教育研究の水準の向上</b> <b>基準3 特色評価：特色ある教育研究の進展</b>

※ 2022年受審用。大学・短期大学基準協会（2020年4月に短期大学基準協会から名称変更）は2020年度より大学の認証評価を開始。  
 大学教育質保証・評価センターは2020年度より認証評価を開始。

29

### 3. 認証評価の概要 評価の重点

- ① 学校教育法や大学設置基準等の法令要件が遵守されているか。
  - ② 理念・目的、教育目標を達成するために大学がどのような努力をしているか、それがどの程度達成されているか。
- ☆ 3巡目の認証評価では、以下の事項が2巡目までよりも重視される。
- **内部質保証**：組織体制・責任体制の整備、実施方針・手順に基づく定期的な自己点検・評価の実施、自己点検・評価の結果等を改革・改善につなげる仕組みの確立状況など、内部質保証に関わる取組が適切に行われ、有効に機能しているかという観点から「重点的に」評価を行う。
  - **三つのポリシー**：三つのポリシーの一貫性・整合性、入学・在学・卒業の各段階における目標の具体化、策定時の組織的な議論の状況、実施状況の検証を踏まえた改善状況などの観点から評価を行う。
  - **大学による学生の学修成果の把握・評価**：学位授与方針に則した学生の学習成果を把握・評価し、適切な学習成果が得られているか評価を行う。

30



### 3. 認証評価の概要 内部質保証のポイント

- ① 大学が**自らの責任**で行う                      ～大学は自律性のある組織である
  - ② **恒常的・継続的**に行う                      ～認証評価対応のものではない
  - ③ **自己点検・評価の結果を基に質の向上**を図る                      ～改善志向・PDCAサイクルの確立
  - ④ 大学の諸活動の**質を自ら保証**する                      ～社会からの信頼を得る
- ◆ 認証評価では、内部質保証の方針や体制、手順・手続き、内部質保証システムが実際に機能していることについて問われる。

31

### 3. 認証評価の概要 大学機関別認証評価のスケジュール (1/2)

	大学改革支援・学位授与機構	大学基準協会
受審 前年度	5～6月 説明会，研修会 9月末 申請	4月 説明会 11月末 申請
受審 年度	6月末 「自己評価書」提出	4月1日 「点検・評価報告書」等提出
	10～12月 訪問調査	9～10月 実地調査
	1月末 評価結果（案）の通知	1月中・下旬 大学評価結果（委員会案）の通知
備考	3月下旬 評価結果の確定及び公表	3月 「大学評価結果」の確定及び公表
	「大学評価基準を満たしていない」場合， 評価実施年度の翌々年度まで 追評価（任意）	「不適合」の場合，翌年度以降，次の 評価の実施前年度まで 追評価（任意）
	評価を受けた翌年度以降の各年度 「対応状況報告書」等提出 ※未対応であっても3年後には提出必須。	大学評価結果受領から3年経過後の 7月まで「改善報告書」提出

（注）新型コロナウイルス感染症の影響がない場合の基本スケジュールを記載。

32



### 3. 認証評価の概要

## 大学機関別認証評価のスケジュール (2/2)

	日本高等教育評価機構	大学・短期大学基準協会	大学教育質保証・評価センター
受審前年度	7月 申請 9月 説明会	7月末 申請 8～9月 説明会	6月 説明会 11月末 申請 (非会員は前々年度の11月末)
受審年度	6月末 「自己点検評価書」等提出 9～11月 実地調査 12月 評価報告書案①の通知 2月 評価報告書案②の通知 3月末 評価結果の確定及び公表	6月末 「自己点検・評価報告書」提出 9～10月 訪問調査 12月 機関別評価案の内示 3月 機関別評価の決定及び評価結果の公表	5月末 「点検評価ポートフォリオ」提出 10～11月 実地調査 2月 評価結果(案)の通知 3月 評価結果の確定と公表
備考	「不適合」の場合、指定の期日までに 追評価(任意) (従来は「保留」→再評価) 「適合」の認定を受けた翌年度から3年以内 「改善報告書」提出	「不適格」の場合、指定する期間内に 再評価(任意) 適格に改善意見が付された場合、指定する期日までに報告書を提出	「改善が必要」とされる事項が指摘された場合、大学の求めに応じて 再度の評価(任意)

(注) 新型コロナウイルス感染症の影響がない場合の基本スケジュールを記載。

33

### 3. 認証評価の概要

## 大学機関別認証評価の自己評価書 (1/5)

#### □ 大学改革支援・学位授与機構

- ◆ 根拠資料・データへの参照のみが原則。根拠資料・データでは十分に立証できない場合や、特色ある取組や成果がある場合には、簡潔な説明を加える。
- ◆ 領域6(教育課程と学習成果に関する基準)は、学部・研究科等ごとに作成。

#### □ 大学基準協会

- ◆ 大学が「評価の視点」を設定した上で、根拠資料・データを参照させながら、全学的観点から取組等の現状説明とその有効性や適切性の判断を記述。
- ◆ 基準1(理念・目的)、基準4(教育課程・学習成果)、基準5(学生の受け入れ)、基準6(教員・教員組織)では、全学的観点からの記述とあわせて、学部・研究科等の個別的な状況を例示。

34

### 3. 認証評価の概要

## 大学機関別認証評価の自己評価書 (2/5)

- 日本高等教育評価機構
  - ◆ 根拠資料・データを明示しつつ、事実の説明及び自己評価、改善・向上方策（将来計画）を記述。
  - ◆ 従来からの独自基準に加え、特色ある教育研究活動や事業を「特記事項」として3つまで記述。
- 大学・短期大学基準協会
  - ◆ 根拠資料を明示しつつ、現状及び特色ある取組、課題、特記事項、改善状況・改善計画を記述。
- 大学教育質保証・評価センター
  - ◆ 基準1（法令適合性の保証）は、関連資料を明示しつつ、法令への適合性に関する自己点検・評価の状況を記述。
  - ◆ 基準2（教育研究の水準の向上）、基準3（特色ある教育研究の進展）は、自己の水準分析や特色ある教育研究の状況を、関連資料を示しながら具体的な取組内容（3～5つを目安）とともに記述。

35

### 3. 認証評価の概要

## 大学機関別認証評価の自己評価書 (3/5)

大学改革支援・学位授与機構

基準〇ー〇

分析項目〇ー〇ー1 （当該分析項目に係る根拠資料・データを添付）

分析項目〇ー〇ー2 （当該分析項目に係る根拠資料・データを添付）

・  
・

【特記事項】

- ① 上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できない場合、その理由を400字以内で記載。
- ② この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記載。

【基準に係る判断】（当該基準を満たすか否か）

【優れた成果が確認できる取組、改善を要する事項】

36

### 3. 認証評価の概要 大学機関別認証評価の自己評価書 (4/5)

大学基準協会

日本高等教育評価機構

大学・短期大学基準協会

#### 第〇章（基準〇）

##### 〇.1. 現状説明

点検・評価項目①

点検・評価項目②

・

・

##### 〇.2. 長所・特色

##### 〇.3. 問題点

##### 〇.4. 全体のまとめ

#### 基準〇

##### 基準項目〇ー1

(1) 自己判定

(2) 自己判定の理由  
(事実の説明及び  
自己評価)

(3) 改善・向上方策  
(将来計画)

##### 基準項目〇ー2

・

・

##### 基準〇の自己評価

#### 基準〇

[テーマ 基準〇-A]

テーマ 基準〇-Aの根拠資料

区分 基準〇-A-1の現状

区分 基準〇-A-2の現状

：

テーマ 基準〇-Aの課題

テーマ 基準〇-Aの特記事項

[テーマ 基準〇-B]

：

<基準〇の改善状況・改善計画>

(a) 前回の認証評価を受けた際に自己点検・評価報告書に記述した改善計画の実施状況

(b) 今回の自己点検・評価の課題についての改善計画

37

### 3. 認証評価の概要 大学機関別認証評価の自己評価書 (5/5)

大学教育質保証・評価センター

#### 基準1

##### 評価事項イ

(1) 自己点検・評価の実施状況

・ 自己点検・評価の内容の説明

・ 適合性の判断（適合するか否か）

・ 優れた点・改善を要する点

(2) 関係法令等に対応する関連資料

##### 評価事項ロ

・

・

##### 評価事項ヌ

#### 基準2

1) 自己分析活動の状況

2) 自己分析活動の取組1

・ 分析の背景

・ 分析の内容

・ 自己評価

・ 関連資料

自己分析活動の取組2

：

#### 基準3

1) 特色ある教育研究の状況

2) 特色ある教育研究の取組1

・ 取組の概要

・ 取組の成果

・ 自己評価

・ 関連資料

特色ある教育研究の取組2

：

38

### 3. 認証評価の概要

## 大学機関別認証評価における留意点

- 「自己評価書作成要領」（認証評価機関ごとに名称は異なる）を熟読し，その指示に従って，遺漏のないように自己評価書等の提出資料を作成。
- 先行受審大学の自己評価書と評価結果の分析も有効。（自己評価書と評価結果のセットでやらないとミスリードする危険もある。）
- 本文と根拠資料・データとの間に，また，分担執筆の場合に，用語や数値に齟齬がないように注意。
- 最新の答申，法律改正等への対応状況も問われることがあるので，その点にも十分配慮。
- どの認証評価機関でも，提出前の事前相談等を行っているので，それを利用するのも有効。

39

### 3. 認証評価の概要

## チェックポイント (1/2)

- 次の大学の認識は，認証評価において問題ないか？
- (1) 大学の理念・目的を刊行物やホームページ等で公表する必要はない。
- (2) 学部・研究科等の教育研究上の目的を学則等に設定しているので，刊行物やホームページ等で公表する必要はない。
- (3) 大学の事業に関する中期的な計画は策定することが望ましいのであり，必ず策定しなければいけないというものではない。
- (4) 大学が行った自己点検・評価の結果は学内に公表していれば十分である。
- (5) 内部質保証体制は慣習的に整備されているので，その権限・役割を規程や手続き類に定める必要はない。
- (6) 教育職員免許法に係る認定課程を有する大学において，教育職員免許法施行規則第22条の6で指定している教員の養成の状況を把握していれば十分であり，これらの教員養成状況に関する情報を公表する必要はない。

40

### 3. 認証評価の概要 チェックポイント (2/2)

- 次の大学の認識は、認証評価において問題ないか？
- (7) ゼミナールや芸術・運動系科目など、授業計画や成績評価基準を明文化しにくい科目については、シラバスまたはシラバスの該当箇所を作成する必要はない。
- (8) 卒業・修了の要件を学則等に定めているので、刊行物やホームページ等で学生に明示する必要はない。
- (9) 修士課程・博士課程における研究指導の方法やスケジュールは、コースワーク終了後に定めればよい。
- (10) 学位授与方針に学習成果に関する定めがあれば十分であり、学習成果の点検・評価を行う必要はない。
- (11) 入学定員充足率が0.5未満の学部・研究科または1.5以上の学部・研究科はあるが、大学全体として見れば1.0になるので問題ない。
- (12) 専任教員数が大学設置基準を満たしていれば、教授・准教授等の職位別人数は職位ごとのばらつきを確認する程度で十分である。

41

### 4. 自己評価書作成に当たってのチェックポイント 本章の概要

- 本章では、自己評価書作成時に気を付けていくべきポイントについて説明します。
- (1) 記述・表現が明確か？ [スライド43～44]
- (2) 実施状況や成果の説明に具体性があるか？ [スライド45]
- (3) データは適切に使われているか？ [スライド46～48]
- (4) 目標・計画・質問の捉え方、目標・計画そのものについて、問題はないか？ [スライド49～50]
- 以下を達成目標とします。
- (a) 自己評価書作成時のチェックポイントを考え方とともに説明できる。
- (b) ここで得た知識を、実際の自己評価書作成・改善の現場で活用できる。

42

## 4. 自己評価書作成に当たってのチェックポイント (1) 記述・表現が明確か? (1/2)

(1-1) 言葉の定義は明確か?

■ 次のような用語等に注意

①人によって定義・解釈が異なる可能性のある用語

(例) グローバル化, コミュニケーション力

②学内でのみ通用する用語・略称

(例) 神大アドバイザー, KUID

■ これらについては, 評価者との間で共通認識を形成できるように自大学で用いている定義や具体的な内容を説明する必要がある。

43

## 4. 自己評価書作成に当たってのチェックポイント (1) 記述・表現が明確か? (2/2)

(1-2) 曖昧な用語を使用していないか?

■ 評価書には客観性が求められる。

■ 「それほど」, 「だいたい」, 「思われる」, 「図る」等の曖昧な用語を使わず, 明快に言い切る表現が求められる。

(例1) 「卒業生アンケートの結果, 大学生活にだいたい満足している。」

→ 「だいたい」の基準が分からないので達成度を判断できない。

(例2) 「内部質保証システムの整備が図られた。」

→ 「結局, 内部質保証システムは整備できたのか」という疑問が生じる。

44

## 4. 自己評価書作成に当たってのチェックポイント (2) 実施状況や成果の説明に具体性があるか？

- 自己評価書の説明が具体的に書いてあると、何をやっているのか、あるいはどんな成果があったのかイメージできる。

(例1) 「毎学期学生アンケートを実施し、結果を授業改善に活かしている。」

→ 「改善の内容、改善後の成果はどうなっているか」という疑問が出てくる。

(例2) 「学生の学修成果を定期的に教員が確認し、学生の学修成果の向上を図るため、ポートフォリオを導入している。」

→ 「ポートフォリオはどの程度利用されているか」とか「ポートフォリオをどのように使って学生の学修成果を向上させているか」などの疑問が出てくる。

- 想定した結果が伴っていない場合、その原因や改善策を示すことが重要。

45

## 4. 自己評価書作成に当たってのチェックポイント (3) データは適切に使われているか？ (1/3)

- 「エビデンス（根拠）に基づく評価」が原則

= 定量的あるいは客観的なデータを示した上で、結論を根拠づける。

- 目標・計画あるいは認証評価における質問に照らして、また、自己評価書本文の記載内容に照らして、次を行う必要がある。

- ① 実施状況や成果を“端的に”示すものであるかどうか吟味
- ② 提示内容は必要十分であるかどうか吟味
- ③ 資料・データの精選、あるいは資料・データを分かりやすい形に整理

- 成果を示す場合、事前と事後の比較、経年変化などのデータに基づく分析がなされていることは、改善・向上などの変化の程度を明確に示す意味で有効。表やグラフの利用も効果がある。

46



## 4. 自己評価書作成に当たってのチェックポイント (3) データは適切に使われているか? (2/3)

(例) 「共同研究収入は前年度よりも300万円増加した(資料1)。」

資料1 前年度及び今年度の共同研究タイトル一覧

共同研究先	研究タイトル	研究期間
〇〇製薬	老化防止薬の開発	H30～R3
△△△情報通信	ビッグデータの管理に関する研究	R2～3
◇◇◇◇工業	耐震性を高める建築方法	R2
◇◇◇◇工業	断熱効果の高い建築方法	R3

47

## 4. 自己評価書作成に当たってのチェックポイント (3) データは適切に使われているか? (3/3)

(例) 「共同研究収入は前年度よりも300万円増加した(資料1)。」

資料1 前年度及び今年度の共同研究タイトル一覧

(当日投影)

48



## 4. 自己評価書作成に当たってのチェックポイント

### (4) 目標・計画・質問の捉え方, 目標・計画そのものについて, 問題はないか? (1/2)

- 目標・計画あるいは認証評価における質問に沿って, もれなく結果を記す。  
～ 評価者は自己評価書の記載内容“だけ”を頼りに評価する。
- 目標・計画あるいは認証評価における質問の内容を的確に捉え, 整合性のある記述をする。

(例)	計画	実施状況
	教員評価を毎年度行う。	平成25年度より, 毎年度全ての授業について全学統一形式の授業評価アンケートを行い, その結果を授業改善に活用している。

→ 教員評価は教員の教育研究等の活動状況に関する個人評価であるという認識を持つ評価者が読めば, 計画の捉え方がおかしいと思うだろう。

もし一般に理解されている意味での教員評価を行っているのであれば, その内容や実施方法, 評価結果の活用方法などに書き換える必要がある。

## 4. 自己評価書作成に当たってのチェックポイント

### (4) 目標・計画・質問の捉え方, 目標・計画そのものについて, 問題はないか? (2/2)

- 曖昧な目標・計画, 実現可能性を無視した目標・計画, 行き当たりばったりの目標・計画など, 目標・計画そのものに問題がある場合もある。

(例) 計画「教員の研究活動を充実させる。」の問題点

- 計画の具体的な内容をイメージできない(人によってイメージする内容が異なる)。
  - 自己点検・評価を行うときに事前に点検項目や数値目標などが設定されていなければ, 何をもって充実したと判断すればよいか分からない。
- 評価担当者としては, 目標・計画そのものに問題がある場合に, 具体的かつ達成可能な目標・計画に修正するように計画立案者に提案すること考えられる。ただし, 公表済みの目標・計画の修正は一般に困難である。

## 参考文献・URL

- 江原武一（2009）「日本における大学評価の進展」、『立命館高等教育研究』，第9号，93-108.
- 川口昭彦（独立行政法人大学評価・学位授与機構編集）（2006）『大学評価文化の展開—分かりやすい大学評価の技法』，ぎょうせい.
- 高等教育のあり方研究会内部質保証の在り方に関する調査研究部会（2015）『内部質保証ハンドブック』，大学基準協会.
- 関 隆宏（2011）「大学評価」，岩崎保道編著『大学政策論』第4章，大学教育出版，67-88.
- 関 隆宏（2018）「初めて評価を担当される方へ（前編）—2018年改訂版—」，情報誌『大学評価とIR』第9号，31-49.
- 関 隆宏（2018）「初めて評価を担当される方へ（後編）」，情報誌『大学評価とIR』第9号，1～19.
- 関口正司（2004）『教育改善のための大学評価マニュアル』，九州大学出版会.
- 大学改革支援・学位授与機構（2016）『高等教育に関する質保証関係用語集 第4版』.
- 大学評価・学位授与機構編著（2007）『大学評価文化の展開—高等教育の評価と質保証』，ぎょうせい.
- 大学評価・学位授与機構編著（2010）『大学評価文化の定着—日本の大学教育は国際競争に勝てるか？』，ぎょうせい.
- 新野 豊，藤原将人（2010）「評価者研修について—日本の大学評価における評価者育成の動向と課題—」，『大学評価研究』第9号，91-101.

51

## 参考文献・URL

- 大学改革支援・学位授与機構（2022）『大学機関別認証評価 自己評価実施要領（令和5年度実施分）』，[https://www.niad.ac.jp/media/006/202206/no6\\_1\\_1\\_jikohyoukajissiyoukouR5.pdf](https://www.niad.ac.jp/media/006/202206/no6_1_1_jikohyoukajissiyoukouR5.pdf)
- 大学改革支援・学位授与機構質保証システムの現状と将来像に関する研究会（2017）「教育の内部質保証に関するガイドライン」，[http://www.niad.ac.jp/n\\_shuppan/project/\\_icsFiles/afidfile/2017/06/08/guideline.pdf](http://www.niad.ac.jp/n_shuppan/project/_icsFiles/afidfile/2017/06/08/guideline.pdf)
- 大学基準協会（2022）『大学評価ハンドブック（2022年（令和4年）改訂）』，<https://www.juaa.or.jp/upload/files/accrreditation/institution/handbook/university/2020/01%20all/大学評価ハンドブック（結合版）令和4年3月.pdf>
- 大学教育質保証・評価センター（2019）『評価実施ハンドブック』，<http://jaque.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2022/07/評価実施ハンドブック.pdf>
- 大学・短期大学基準協会（2021）『大学認証評価 評価校マニュアル 令和4年度用』，[https://www.jaca.or.jp/jaca\\_cms/wp-content/uploads/2021/09/R4\\_manual\\_daigaku\\_syusei\\_210909.pdf](https://www.jaca.or.jp/jaca_cms/wp-content/uploads/2021/09/R4_manual_daigaku_syusei_210909.pdf)
- 大学評価コンソーシアム（2013b）「評価作業（記述の分析）のガイドライン—目標や計画に照らした記述内容のチェック作業から改善の示唆へ向けて—」，[http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/documents/guideline/h25-0212\\_Hyouka\\_guideline\\_data\\_analysis.pdf](http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/documents/guideline/h25-0212_Hyouka_guideline_data_analysis.pdf)
- 日本高等教育評価機構（2021）「令和4年度 大学機関別認証評価 受審のてびき」，[https://www.jihe.or.jp/achievement/guide/pdf/r4\\_tebiki.pdf](https://www.jihe.or.jp/achievement/guide/pdf/r4_tebiki.pdf)
- 未来工学研究所（2018）「文部科学省の「研究開発評価研修プログラム教材」の改定に係る調査・分析」報告書，平成29年度文部科学省研究開発評価推進調査委託事業.
- 文部科学省高等教育局国立大学法人支援課国立大学戦略室（2017）「国立大学法人の第3期中期目標期間における各事業年度に係る業務の実績に関する報告書 作成要領」

52